

黒畦

徳之島北東岸のこの険しい海岸線は、地形に興味がある人におすすめです。この地形は浸食とサンゴ礁の隆起と陥没により何百万年もかけて形成されました。海から突き出ている巨大な岩の塊は、硬い花崗岩や石灰岩、メランジュ堆積物など、さまざまな形や大きさの鉱物のかけらが集まってできています。この岩にはいたるところに大きなポットホールがあります。ポットホールは、礫を運ぶ渦流が長い年月をかけて岩の表面をくぼませることにつくられる垂直円筒形の穴です。最も大きいポットホールは直径 50cm ほどにもなります。ポットホールだらけの岩群はあちこちが崩壊しており、落ちた部分が地面に転がっています。この堆積物は、町の天然記念物に指定されています。

海の生き物からこうもりまで

崖肌にみられる岩やサンゴの層は、長年にわたる地面の隆起と陥没の結果をはっきりと示しています。付近にはヤドカリや色鮮やかな熱帯魚などの海の生物で賑わう数多くの潮溜まりがあります。海岸線に沿って、ポットホールや形成途中の石筍を伴う洞窟が連なっています。一部の場所では、壁面が水流に含まれるミネラルによって着色されており、岩の隙間をコウモリがねぐらにしていることもあります。

ウミガメの繁殖地

少し南にある花徳浜は、長く幅広い白砂の浜で、島内屈指のサーフィンスポットです。アオウミガメとアカウミガメのお気に入りの産卵地でもあります。ウミガメは一度に多いときで 100 個の卵を産みますが、孵化後生き残るのはごく少数です。アカウミガメはアメリカ西海岸まで回遊します。一方、アオウミガメは近海にとどまり、遠くには行きません。

訪れる際の注意

この地域を散策する際は十分安全に注意してください。岩やサンゴの表面はでこぼこしており、場所によっては鋭く尖っていることがあります。満潮時には行けなくなる箇所があるので、潮の満ち引きを確認しましょう。洞窟内を散策する際には、ライトを持って行きましょう。帰るときはすべてのゴミを忘れずに持ち帰ってください。

様々な植物

この地域をはじめとする徳之島の多くの場所で見られる植物の一部をご紹介します。

Fragrant screw pine (*Pandanus odorifer*) は日本語でアダンと呼ばれます。アダンはヤシに似た雌雄異株の木で、長い剣状の葉をと、パイナップルのような形の大きな食べられない実をつけます。

ソテツ (*Cycas revoluta*) は Sago palm としても知られます。ソテツは太い幹と緑の葉の冠を持ち、有毒の実をつけます。ソテツはおよそ 350 年前に徳之島に持ち込まれたと考えられています。この木は数百年の寿命を持ちます。有史以前から比較的に変わらない姿を保っているため、ソテツは「生きた化石」と呼ばれます。

クサトベラ (Beach naupaka, *Scaevola taccada*) は beach cabbage としても知られます。砂の土壌で急速に生長し、海水の塩分にも耐性を持ちます。日本語ではクサトベラですが、芯の片側のみに半円状に花弁をつけることから、ハワイではハーフフラワーと呼ばれています。

モクビャッコウ (Chinese wormwood, *Crossostephium chinense*) は、絶滅危惧種で、銀色っぽい可憐な葉と黄色の花をつけるやぶ状の植物です。アジアの一部地域では、薬効があるとされています。